

シリーズ石見銀山②⑥ 町並み保存地区を歩く 「温泉津らしさ」を生かしたまちづくり

冬の石見銀山は、多くの人々で賑う夏場の光景とは一味異なり、静かで凛とした情感があります。温泉津の温泉宿では、冬寒の中で散策を楽しんだ方々を心身ともに温かく迎えています。

世界遺産の主要な構成資産である大田市温泉津伝統的建造物群保存地区（以下、温泉津地区）は、温泉津湾の入江から延びる谷筋に沿って形成され、近世の地割や自然地形を生かした土地利用をよく残しており、漆喰塗の土蔵造町家や門塀付きの屋敷、洋風意匠の住宅、木造三階建の旅館、寺社建築など、江戸後期から昭和初期における各時代の特徴を備えた多様な建築物が良好に現存しています（写真①）。

温泉津地区は、現在全国に106地区ある国の重要伝統的建造物群保存地区の中ではただ一つ、「温泉町」として平成16年に選定を受け、今年で10周年を迎えます。平成26年度からは保存地区において温泉津らしい文化財と暮らしの両立を目指し、防災施設の整備を含む環境整備事業が始まります。

温泉津地区は、高齢化の進む地区ではありますが、「はんど」（丸物）と呼ばれる大きな水甕みずがめで全国に知られた温泉津焼を継承する窯元、ふるさと温泉津で神楽社中を結成し、神楽の原点

写真① 歴史的建造物
（上：近世、下：近代）



写真② 夜神楽に集う人々
（龍御前神社）

を大切にしながら夜神楽や海神楽などを催して伝統芸能の継承に励む温泉津舞子連中、一軒貸の宿を整備するなど歴史的建造物の魅力を生かして賑わいづくりに取り組む温泉宿など、先人から受け継いだ地元の伝統技術や文化的魅力の継承に汗をかきながら地域の活性化に挑む若い担い手たちが、少しずつ町に灯りをともしつつあります（写真②）。

昔と何らかわることのない美しい日本海と地元産の酒と魚、ほっこりする温泉、勇壮な神楽、味わいのある焼き物、世界遺産の歴史的町並みで昼夜展開される“まちづくり”の楽しみは始まったばかりです。

【問い合わせ】大田市教育委員会教育部石見銀山課
☎ 0854-83-8133

らとちゃん劇場③



ゆるキャラグランプリ2013



得票は昨年の倍と大健闘
応援ありがとうございました